



新高退通信

No.134

HP : shin-koutai.jimdo.com

mail : shin.koutai@gmail.com



トロッコ電車終点駅「榎平」で記念撮影

新潟高教組

発行所 / 新潟県高等学校教職員組合 / 新潟市中央区川岸町2-11 / TEL (265) 4151 / FAX (231) 1036 / 1部10円 (購読料は組合費に包含)

発行人 吉田 裕史

2019年9月1日
号外

新潟県高等学校
退職者の会

事務局
〒951-8133
新潟市中央区川岸町2-11-4
(高校会館内)

退職者の会専用電話
025-265-1110

ラザ柏屋」にて。しろえびのかき揚げやホテルイカの下飯等を食べて、富山県にきたことを実感しました。そして、いよいよ今回の旅のメイン、トロッコ電車に。客車は最もトロッコらしいオープン型の普通客車に乗りました。風を浴びながら、宇奈月から黒薙、鐘

黒部峡谷トロッコ電車
7月17日、「黒部峡谷トロッコ電車」に乗車し、翌日は班別行動を楽しむ旅」に出発しました。当日、新潟駅のポイント故障のため越後線が不通になった影響で、バスの出発が少し遅れましたが、その後は順調に途中乗車の方々を迎えて26人がそろって一路黒部へ。昼食は宇奈月温泉の「レストプラザ柏屋」にて。しろえび



釣、終点の榎平まで約80分の黒部峡谷の旅に出発です。エメラルドグリーンの中世ヨーロッパ風の黒部川に沿ってトロッコ電車はガタゴトガタゴト、キーキー進みます。うなぎ湖とのコントラストが鮮やかな湖面橋、赤い衣をまとった仏石、中世ヨーロッパのお城をイメージして作られたという新柳河原発電所、と次々に目を楽しませてくれるスポットが現れます。富山県出

2019本部企画
「黒部峡谷トロッコ電車」
に乘車し、翌日は班別行動を楽しむ旅
第1日は黒部峡谷トロッコ電車に乗車し氷見で宿泊、翌日は高岡市、射水市、富山市を訪れた。梅雨の真っ最中に奇跡的に晴れ上がった黒部峡谷の新緑を愛でることができた。翌日も富山を出発するまで我慢してくれていた空は、バスの発車とともに雨を降らせた。

身の女優室井滋さんが務める車内アナウンスが、ユーモアたっぷりにそれらを紹介してくれま

す。ひんやりとした狭いトンネル内を走るときにはゴツゴツした壁面に手が届きそうなど近く、なかなかの迫力です。もちろん、「手や顔は絶対に出さないように」って言われました。



心地よい風が車内を抜けていく

か、往路よりも車輪がキーキー悲鳴を挙げているように感じました。4時過ぎに宇奈月駅で待っていてくれたバスに乗り、魚津、滑川、富山、射水、高岡、氷見、と2時間かけて富山県を西へ横断して、今回の宿舎氷見九殿浜温泉

は白い大きな石がごろごろ。「峡谷」らしくなっています。釣鐘を過ぎるとすぐに対岸に黒部万年雪が見えます。山に積もった雪が落ちて堆積して夏でも溶けずに残っているという巨大な塊です。

さらにトロッコは速度を上げて登って行き、終点の樗平に到着しました。天候に恵まれて、まさに絶景。青空に緑の山々、エメラルドグリーンの中黒部川、赤い奥鐘橋。40分ほどの滞在時間に、ビジターセンターで勉強する人、展望台から写真を撮る人、足湯に入りに行く人、さまざまに過ごして、復路再びトロッコに。下って行くせい

「ひみのはな」に到着しました。道中、恒例の木村会長のお話を拝聴しながら行きました。富山県についての解説、上杉謙信と越中の関わり、通過している土地の偉人について等、さまざまな話題に精通しておられ、その博覧強記ぶりに感服しました。

滑川を過ぎたあたりにある「ムヒ」で有名な池田模範堂の本社。誰でも見たことのあるあの赤いマークが車窓から見えます。その社名の由来は「社会の模範になるう」、「ムヒ」の薬名は比べる物のない「無比」から付けられたのだそうです。これから虫刺されにムヒを塗るたびに思い出しそうです。富山湾を臨む温泉に浸かってお肌がツルツルになった後は、お待ち

ちかねの懇親会です。旧知の方あり、初めてお話しした方あり、26人の氷見の夜は和やかに更けていきました。

清水 泉(新津支部)

高岡銅器「能作」(工場見学)

「ひみのはな」で美味しい朝食を食べたあと、工場見学をお願いした「能作」がある高岡市内のオフィスパークに急ぐ。余裕を持って出発したため20分ほど早く到着したが、開業前の工場に入れてもらえた。入り口には外部の「着色師、青貝師、仕上師」の手を経た完成品の一輪挿しが壁一面に飾られている。ホールに入ると「能作」の命とも言える木型が展示収納されている。9時半になると案内の女性がまず会社概要を説明してくれた。



2階から工場を見下ろす

出した製品をろくろに固定し、高速で回しながらバイトで削ったり、表面を磨き上げたりしていた。複雑な曲線を指先の感覚だけで仕上げていく作業だ。あつという間に見学時間の1時間が過ぎて、次の班別行動に移る。

内山正知(事務局)

独自のものづくりを誇る「能作」だが、かつては地元・高岡市の伝統産業として発展した仏具のメーカーだった。真鍮製の仏具や茶道具、花器などを作っていたが、2003年に錫100%の铸件を開発、「曲がるのなら曲げて使える食器をつくらう」との逆転の発想で曲がる「KAGOシリーズ」などの錫製品を生み出した。さらに他にも真鍮や青銅などによる生産も展開している。

工場見学は、鋳物場が見渡せる2階からはじまる。真鍮の材料である銅と亜鉛を溶かす炉では1000度以上で溶かして型に流し込む。続いて1階に降りて錫製品の工程を見学する。錫は融点が低いのでガスコンロで溶かしていた。

隣の仕上げ場では、すぐ間近で職人たちの手元が見られた。型から

A班 瑞龍寺・高岡大仏・高岡市立博物館

1. 瑞龍寺 能作の工場見学を終え、バスで瑞龍寺に向かう。降りた所は「八丁道」。墓所と寺を一直線で結ぶ遊歩道・参道をぶらぶらと歩く。八丁が何百mかわからないが整備された石畳の道がずっと遠くまでつづいている。途中前田利長の像や石灯籠が立ち並ぶ。瑞龍寺は高岡の町を開いた利長の菩提寺で1997年に山門・仏殿・法堂が国宝に指定され、また総門・禅堂などが重要文化財になっているとのこと。私が感銘を受けたのは『総門・山門・仏殿・法堂を一直線に配列し、左右に禅堂と大庫裏を置き、加えて四周を回廊で結ぶなど、厳肅且つ整然たる伽藍』だ。教科書に載っている禅宗寺院建築そのものである。これらの建物に囲まれた緑の芝生と立体的な建造物の対比の美しさに忘我の心地。私たちが案内してくれたのはボランティア「保与の会」の塩谷美和子さ



瑞龍寺にて

益があった。駅を南から北へ抜け、次の見学地、高岡大仏をめざして歩く。2. 高岡大仏 12時に「市指定有形文化財銅造阿弥陀如来坐像」到着。高さ15mを超える大仏は銅の町高岡

ん。ベテランらしくいい雰囲気をつくりながら案内してくださった。法堂右、般若の間には烏ス沙魔明王がまつられている。『本来は東司にまつられ、下の仏様、安産の仏様』の前にお札が売られていて、石野班長が買ったので私もつられて買った。「昔はお便所を見ると、その家の様子が知れる」とかトイレにまつわるいろんな話が道中語られた。トイレは大事ですもの。原発はトイレがないからダメだね。もう半分の回廊を回った後、さてこれからどうやって大仏へ行こうかというときに、ガイドさんが「ワゴン車で送る」と話をつけてくれた。黒の作務衣を着たお坊さんに高岡駅まで送ってもらった。不案内のところ、時間短縮にもなり大助かり。さっそくお札のご利

のシンボル。中学の修学旅行で行った鎌倉の大仏は、もっと大きいと思ったが13m余り。時の経過が感じ方を変えるのだろうか。3. 高岡市立博物館 公園は東京ドームの約4・5倍。この中に神社や市民体育館、市民会館、動物園などが森や濠に囲まれている。築城当時の石垣を見たいと思ったが見つけられなかった。あとでパンプを開いたら、私たちが渡った土橋の両面にあったのだ。灯台下暗し、残念!!土橋の上から遥か下水面まで10m以上あるうかと思われる見事な濠に見とれていた。市立博物館もそんな森の中に静かにたたずんでいた。戊辰戦争や空襲で跡形もなくなった長岡城とついで比べてしまう。博物館を出て、いよいよランチ。4. 昼食 先の食堂で紹介された2店のうち、古城公園を出たすぐ先の洋食店は満員で入れず。次に探し当てたのは「居酒屋 二の丸」と看板にある所。先客が2、3名いて奥のテーブルに案内される。早くできるといふことで、皆で「ちらし寿司」を注文する。ノドの渴いた人はビール追加。食事後の勘定を聞いてびっくり。なんと「ちらし」は500円、ビール

の人はプラス550円。それにお通しが全員に付いた。これをトイレの神様のご利益と言わず、何と言おうか。

降り出した雨の中、博物館前で待っているバスへ。途中、高山右近像があった。何でここに高山右近像が?と思ったが、説明書によると、高岡城の縄張り(設計)は築城の名手として有名な高山右近によるものだそう。またひとつ勉強になった。14時予定通り新湊海王丸パークに到着、B班と合流する。

神保藤雄(長岡支部)

B班 路面電車「万葉線」・新湊きつときと市場・海王丸

B班12名は高岡駅前バスを下車。昼食のおいしい魚定食も求めて「新湊きつときと市場」へ向かうため、駅前にある万葉の歌人同伴家持の銅像に挨拶をして、駅前から出る万葉線(越ノ湯行き)の市電に乗り込む。電車は2両編成で車体の床は低く降り易いが、座席は高い位置にあり降り難い造りであった。駅前の中心地では道幅も広く車も市電もゆったり走っていたが、中心地をはずれると道幅が狭くなってきて、少し車



万葉線高岡駅

が通りにくそうであった。最後の方は電車専用の単線区間になり、約50分の乗車で終点2つ手前の東新湊駅に到着。

予定より早く着いたので少し回り道をして、新湊大仏(丈六阿弥陀如来坐像)と背光の千体仏で知られる光山寺が近くにあるということ、すこし歩いて開運パワースポットのお寺を目指す。現在は無住職のお寺で、本堂の隣の部屋で整体師さんが治療と寺の管理をしているような状態であった。狭い本堂に入ると、目の前に大きな阿弥陀様の坐像と後背に飾られた現在では4千体を越す20cmほどの仏様に圧倒されながら拝観した。

そこからは、昼食を求めて「きつときと市場」を目指してそれぞれのペースで歩く。市場内には幾つかの食堂があり、各自の腹具



係留された海洋丸

合・懐具合・のどの渇き具合等に
応じて三々五々に別れての行動になった。

市場内で土産物を購入した後は、最後の目的地・集合場所である海王丸パークを目指してまた歩く。U字型をした港湾の左の方の岸壁に固定された帆船海王丸、商船学校の練習船として誕生した帆船で、昭和5年に進水して以来59年の長きに航海した船で、現在はここに現役中の姿そのまま係留公開されている。眺めている最中にも小学生の修学旅行の団体が船へと歩いていき、暫くすると雨の強くなる中、別の低学年の子どもたちも楽しそうに海王丸にむかって歩いていった。

目を右側の岸壁に向けると自衛隊の艦艇が着岸しており何かセレモニーをしていた。1時を過ぎると小雨が降り出してきた。すこしずつ雨足が強くなる中、式典を終えたあと自衛官が歩いてきた。よく見ると傘もささずに制服の上コートを着た6名の若

い隊員であった。中に女性の隊員が1名混じっていたが明るく笑い声を交えながら、話をしながらもきちつと2列縦隊の隊列を崩さずに海王丸を目指して行った。少しづつ雨足が強くなる中、迎いのバスを待つ。バスはほぼ予定時刻に到着。C班の待つ富山市内に向かった。

C班 富山市立郷土博物館・高志の国文学館

平野伸一(新津支部)

C班は木村昭雄会長をはじめ8名が、富山市へ向かった。

まずは、富山市役所展望塔(地上70m)360度大パノラマ展望回廊から、雄大な立山連峰を期待したが、あいにく当日は曇天のため、眼下の富山市街を見下ろすことに留まった。

その後、市役所食堂で昼食を済ませて、富山市立郷土博物館(富山城)へ向かい、築城から明治時代以降の400年にわたる城址の変遷を語る「富山城ものがたり」を歴史体験した。富山城をめぐる



郷土博物館にて

繰り広げられてきた一向一揆勢や上杉謙信、武田信玄、織田信長、豊臣秀吉ら戦国武将たちとの争奪の舞台となった。越中側から見た、上杉謙信の評価は越後人の我々とは異なることに興味をもった。

市街地の中心部に位置する広大な敷地と、リニューアルオープンされた富山城は羨ましい限りである。平成16年には国の登録文化財に登録されている。

次に、富山城から歩いて10分の「高志の国文学館」へ向かった。

平成27年に北陸新幹線開業に合わせて開館された。万葉歌人の大家持から堀田善衛など現代に至るまでの文学者や、新田次郎らの富山県を舞台にした文学作品のほか、富山県ゆかりの映画、アニメ、漫画、先人たちを紹介している。また最先端技術を用いた「デジタル絵巻」や「万葉とばし展開画面」映像と音声などは、自然に万葉の時代にいざなってくれた。

石田秀男(上越支部)

日退教総会報告

避けられない

組織・活動の見直し

6月7日、日本教育会館で開催された定期総会には、①2018年度経過報告・2019年度活動方針(案)②2018年度一般会計決算報告・2019年度一般会計予算(案)③役員選出に関する件(案)の議案が提案され、11人の代議員からの質疑・意見がありました。原案通りに承認されました。特記すべきは以下の4点です。

I 各単会の負担金の値上げ

2018年度一般会計は、100万円の赤字となり、特別会計より補填するという厳しい財政状況をふまえて、会員1人当たり1100円の負担金を30円値上げし、1400円とすることになりました。会員数285人以下の単会は一律40,000円と改正されました。これにより、新高退の負担金は、140×会員数となります。

会費の値上げについては、福岡県退教から「事前に提出した質問状はどうなったのか、もっと慎重

に審議すべきではないか。組織・活動の見直しをしたのか」との質問がありました。

II 定期総会の「隔年開催」化

これまで年度ごとに開催をしてきた定期総会を隔年開催とし、定期総会が開催されない年度は「組織代表者会議」を開催する。この構成員は、各単会代表1名、各ブロック代表1名(女性)とする。組織代表者会議の位置づけ、性格にはついては未審議です。

III 「生きがい支援協会」(事業資金は教職員相互共済会が拠出)からの単会囲碁大会補助金廃止、北プロ・全国囲碁大会廃止

この件については、石野事務局長が今後の対応について、代替案検討を強く要望した。

IV 新役員は、西沢清会長の後任に事務局長の竹田邦明さん(神奈川県高退教)、事務局長に平岡良久さん(東京高退教)、副会長に富山退教の坂田勲さんを選出

参考までに付言しますと、日退教の予算の収入額は、日教組負担金、教職員相互共済会交付金、予算の50%を占めるといふ依存度が高く、不安定な財政状況になっています。

北プロ総会報告

日退教定期総会「隔年開催」への対応は協議未了

6月19、20日、石川県(当番・石川高退教)の粟津温泉で開催された第43回定期総会には、会計に関する2つの報告事項、2019年度活動方針(案)・予算(案)など5つの協議事項が議事として提案されました。

会計年度について昨年度会計から異議が出され、次年度議案として提案される方向となりました。

また、日退教定期総会の「隔年開催」決定を受け、北プロとしてどう対応するかについての質疑があり、議事進行が遅れましたが報告・協議事項は原案通りに承認されました。議事進行の遅れにより、通例となっている各単会からの活動報告が省略されました。

総会后、永年にわたり地元で小松基地闘争に関する市民運動に関わってきた弁護士・岩淵正明さんより記念講演「安倍政権下における憲法『改正』が行われました。講演は、「難しいことをわかりやすく」の範となるような内容で刺

激を受けました。安倍政権の憲法「改正」まっしぐら路線に抗する一策として、このような草の根的な学習会の開催の取り組みが必要なのではないか、との感想を持ちました。総会には4県の6単会から30名が参加しましたが、その内の12名が石川高退教からの参加者であったのは、当番県であったことからの「ようこそ石川へ」の意を込めたものがあつたのでしようが、石川高退教会員の意識の高さ、つながりの強さを感じました。

(木村)



かつては北プロ総会の翌日に研修が設定されていたが、最近では朝食後に解散なので、新潟に帰る前に自主研修をするようにしている。かつて自動車メーカーに勤めていた私は日本最大級の「日本自動車博物館」を見学してきた。前田彰三が20世紀に日本国内で収集した800台のうち500台が展示しており、その巨大な展示の様は圧巻だった。(内山)

2019年度 総会報告

組織・財政改革の 歩み、順調に推移

6月26日、高校会館3階ホールに代議員41名が集合し、2019年度総会が開催された。

開会行事のあと、昨年度の経過、会計決算報告(所見を含む)、会計監査報告を行い、その後第1号議案(第4号議案の議事と進められた。

昨年度に引き続き会計関係では、新高教依存体質の改善と会計運用適正化の取り組みを実施してきた。会員の自主的活動にかかる費用は原則的に参加者の自己負担としたこと、会員加入促進の取り組みを進め、会費の特例廃止ときめ細かい督促による会費徴収の改善をしたこと、新高教補助金を515,000円から300,000円に減らし、通信発行回数を年3回に削減したことである。

決算書について、①会費収入が予算を大幅に増加した理由は、会費納入の期限を定めていず、手段も自由になっているため、どの年度の会費がいつどこで納入されるか

が定まっておらず、今回は次年度会費が多く含まれていること、②新高教からは現金で30万円の

他、通信発行にかかる経費を直接支払いの形で補助してもらっているが、その実態を決算書に実績記入したこと、③会費収入増と削減努力による支出合計額の減少などによって、繰越金(2,422,543円)が安定していることについて詳細に説明した。

7月実施の参議院議員選挙では、全国比例はみずおか俊一、新潟選挙区はうち越さくらの推薦を決めた。結果、野党共闘の歯車がうまく回りうち越は当選、みずおかも立憲民主党比例2位で当選した。

サポートGによる本部企画は、①富山旅行(「黒部峡谷トロッコ電車」に乗車し、翌日は班別行動を楽しむ旅/7・17(18で既実施)、②「湯沢de懇親会・2



総会が開催された高校会館3Fホール

日目は自由活動(KKR湯沢ゆきぐに/10・23(24予定)、③版画教室(10月に4日間を予定、高校会館)である。

新潟教と合同開催してきた新潟県退職教職員囲碁大会は昨年度から廃止し、それぞれの県大会で北陸ブロック大会出場者を決定して来た。北陸ブロック囲碁大会は今年度富山での開催となった。しかし、その後の情報で、生きがい支援協会の補助がなくなったために、来年度以降は開催自体の検討が必要となった。

通信は年3回の発行とするが、各支部の配付方法(手配りと郵送)に格差がある。郵送料は新高教負担だが、支部の負担が公平になるよう、来年度に向けて補助のあり方について検討する。規約の一部改正について提案を行ったが、提案通り了承された。改正内容は、第3条の(事業)を(活動)規定に変更し、

実態に合わせて内

容を整理したこと、第4条(組織)の会員資格に、新高教退職者を明記したこと、第5条(機関)等に出てくる「総会」を「定期大会」に名称変更したことである。来年度は「2020年度定期大会」となる。

役員改選年のため、役員推薦委員会から候補者の推薦を受け、新高教役員(充て職)の候補者を加えた役員候補を提案した。以上を含む全ての議案に異議がなく承認された。

新発田・村上支部の渡部良一代議員からは新発田市議を降りるに当たって挨拶と謝礼が表明された。上越支部小山正明代議員からは昨年引き続き「現退一致の取り組みはいいが、政治方針については新高退として『社民党中心』という独自方針があってもいいはず」との趣旨で意見が表明された。会長からも趣旨に賛成だとの回答がなされた。来年度議案への反映を検討する。

昨年度から総会は高校会館、懇親会は新潟会館で開催してきたが、総会参加者の多くが引き続き懇親会に参加しており、今年も盛会に開催された。

(内山)

この人は

新発田・村上支部 渡部良一 (02)

市議会議員を終えて

1. プロフィール

1967年新津高校を皮切りに、直江津工業高校(夜間定時制、組合結成に参画)、津川高校(青年部長)、中条工業高校(書記長・分会長など)で社会科、野球部監督として勤務、本部には執行委員を経て書記長4期(3期日離籍)、委員長1期を勤める。

新発田選挙区から県議選に挑戦するも敗北し、市議選に転じ当選3期努め今春引退する。
2. 市議会議員として

出馬するときに年齢的なこともあり3期を目標にし、4年の任期ごとにやるべき中心的課題を定めて意識的にそれぞれの課題について市長をはじめ執行部との論戦を追及してきたつもりである。

1期目の課題は、議会改革にスポットを当てた。当時「地方分権」や「行政改革」との関連でも、議会(議員、以下同じ)のあり方

に市民の眼は厳しいものがあつた。議会とは何か。議会は何をやっているのか。市民と議会の関

係やあり方等々。私は総務常任委員会副委員長に任じたことから基本法案策定の任に当たることとなった。1年がかりで案文が出来上がり、新潟県では初の議会基本条例が2009(H21)年2月に議決され同年4月から施行された。以降新発田市議会は、この基本条例に沿って市民参画を基本に議会内外の改革改善を進めてきている。

2期目は、平和と人権問題に課題を定め問題提起を行ってきた。平和の問題では、原水禁運動や「非核平和しばた市民の会」の取り組みなどの成果を市としても受け止め、核兵器廃絶と平和を希求する条例制定を求めた。結果、2010(H22)年に「核兵器廃絶平和推進基本条例」制定につながった。人権問題では、部落

解放同盟支部との連携も図りつつ、市民に広く啓発と取組みを図る上で人権条例の制定を求め、2013(H25)年に「差別のない人権が尊重されるまちづくり条例」の制定に繋がった。

3期目は、市民の参画と協働によるまちづくりを主たる課題として議会活動を展開してきた。背景には人口減少と厳しさを増す市政の現状と将来を考えれば、市民の自立を促しつつ市政への参画と協働なくしては持続的な市政運営は不可能であると言う認識からである。全国的にも多様な試行錯誤が試みられている。政府の似非「地方分権」に抗し、地方自治法に言う「地方自治の本旨」に基づき、自主的主体的に自立した真の地方自治を形成するためには避けられない課題である。

紙幅の関係で課題についての傍証を捨象した関係で理解不可能のところは容赦願いたい。意のあるところを酌んでいただければ幸いである。

3. おわりに
3期12年の議員活動も終わった。誤解を恐れずにいう



本会議で質問に立つ

なら選挙は楽しかった。もちろん大変なことも多かったが、それ以上に、選挙活動を通して多くの皆さんとの出会いと交歓、いろんな地域の実情に触れることが出来たことが「楽しかった」につながる。とりわけ私は、生まれも育ちも隣の会津であることから、当地には親戚縁者、同級生は皆無であることから、その「楽しさ」が大きいのかもしれない。人には色々な財産があるだろうが、私にとつては現職時代も含めて、そして選挙と議員活動を通して出会うことが出来た多くの友人、知人は何よりの財産である。ゆえに「遠くの親戚よりも近くの友人」は箴言である。

蛇足ながら、3月29日の朝日新聞新潟版で、統一地方選特集「引退表明した2氏の活動」で小生の記事が経歴・写真付きで載せられた。また、4月23日の新潟日報地域版では、私の意志をついで立候補し、民主党の旗の下当選した「三母高志」さん(日政連議員)の当選の喜びが大きな写真とともに記事化された。奇しくも2人の記事が載ったことは記念事とともに覚悟を持って今後も任務遂行を果たさなければならぬ。



第二の人生を満喫

長岡支部 高橋朋子(18)



1981年、

国語の教員として採用され、十日町(5年)、

小千谷(8年)、長岡聾(10年)、小千谷西(8年)、最後は長岡工業に7年、計38年無事に勤めあげることができました。思い出は、スタートの十日町が一番心に残っています。五六豪雪の年で3月末長岡から十日町に向かうバスの中から、どんどん高くなる道路脇の雪の壁を眺め、不安で胸が一杯でした。しかし、当時、殆ど全員が組合員という学校で熱く教育が語

られる環境の中で、優しく時に厳しく教員としての私を育ててもらった気がします。仕事以外にも春は山菜採り、夏は登山、秋はキノコ採り、冬はスキーと充実した生活を送ることが出来ました。

小千谷の時に結婚し、子供も3人産んで育てました。担任をした時には、副任の先生に助けられ、今は亡き母に育児を助けてもらい、無我夢中でやっと卒業生を出しました。

最後に生まれ故郷で自宅も近い長岡工業に勤務出来たのも幸せでした。初めての職業高校でしたが、地元を支える技術者はこうして育てられるのだと感動しました。

振り返ると本当に多くの方々に助けられてここまで来れたと感謝の気持ちで一杯です。

現在は仕事はせずにのんびり主婦しています。今までのためた荷物の片付けをしたり、今まで手抜きだった料理を工夫したりしています。ほかは水曜の午後は長岡市手話サークル(長岡聾学校時代に身に付けた手話を生かそうと)、土曜の午後は8年前に入った書道塾(長岡工業で書道部の顧問になったのがきっかけ)に通っています。

6月の退職者の会長岡支部総会

に参加し、懐かしい諸先輩とも再会し、懇親会も楽しかったので、今後出来るだけ行事には参加するつもりですので宜しくお願います。後輩たちも続いて入会してくれると嬉しいです。

再任用の待遇改善を

柏崎支部 武本克彦(18)



08年に閉校となった中条工業高校をふりだしに、柏崎高校で

定年退職するまで、8か校に勤務させていただきました。そのうちの2か校では在任中に学校改組となつて校名が変わりましたので、実質は6か校に勤務いたしました。そして、今年度は再任用教員として小千谷西高校にフルタイムで勤務させていただいております。7か校目です。十日町総合高校時代に1年間だけ片道50キロの通勤を経験しましたが、それを除けば現在、生涯でもっとも長い通勤距離を毎日通っています。自宅から職場まで、距離も所要時間もほぼ同一の2つのルートがありますが、どちらもトンネルを2つ抜けなければなりません。晩秋には早めに

タイヤ交換をしようと思っています。

初任校で、赴任した年の4月半ば、当時の分会書記長から「そろっといいでしょ。」と声をかけていただいたので新高教に加入しました。以来、諸先輩方からさまざまなご指導をいただいて今日に至りました。初任校で支部執行委員を務め、三・加茂では支部青年部長を経験させていただきました。また、04年からは1期2年、本部執行委員も務めさせていただきました。その後は、地区労事務局長や支部書記長、支部長なども経験させていただきました。

定年退職とはなりましたが、再任用教員として引きつづき新高教に加入させていただいております。給料は4割減、ボーナスは4分の1。それでも仕事内容は概ね変わらず。同一労働同一賃金って何でしょうか。再任用の待遇改善は大きな課題だと思います。採用前の私学講師のときから38年間野球部顧問で、今年度も野球部責任教師をさせていただいております。どうしても在校時間が長くなります。休憩時間を除く在校時間が、週38時間45分計算の1月分を超えた時間が80時間以上になると校長面談

があります。毎月、校長室へよばれて校長面談を受けています。

「一人じゃない」って素敵

長岡支部 吉田好美 (18)



「自分にこんな日が来るとは・・・」が退職の話題になった

時の口癖のようになっていた。自覚とか満足とかはほとんどないまま3月を迎えた。過去の経歴を語るのなんんだか気が進まない。晴れやかに語れるようなことがあまりないからだろう。

運よく採用されてルンルン(死語か?)気分で、新潟市内の高校で教員生活をスタート。すぐに失敗やつまずきの連続で意気消沈、悶々とした日々。力不足を思い知らされた。結局最後までずっと周囲の方々に迷惑をかけっぱなしだった。今思うとよく続けられたものだ。

若さもあつただらう。様々な生徒と接する面白さが張り合いにもなった。だが、なんといつても仲間を支えてもらえたからこそ、乗り越えられたのだろう。組合には採用当初から加入し、退職まで2

校日以降も各分会に、そして今も非常勤講師として働く長岡向陵高校で分会に入れてもらっている。

どこの学校でも、いろいろな壁とか問題とか、当然のようにあるけれど、一人じゃないぞって思える、分会員という時はホッとすると、そういう気持ちを抱き続けることができた。

長年組合にはずいぶんお世話になり、元気をもらったが、私自身が何かできたかと考えると、恥ずかしい限りである。組織率が低迷していくのを切なく思うだけで、後輩を育てることも、離れていく仲間を引き留めることも、できなかった。せいぜい一生懸命、そして楽しいに動員に出かけていくことくらいしかしてこなかったなあ。

現在は長岡向陵高校で週3日9時間授業をやらせてもらっている。休みの日をもっと有効に使うのが目下の課題である。時々、退職時の見附高校分会の仲間とこっそり(?) 飲みに行くのを楽しみに過ごしている。

これからは退職者の会の皆様とも仲良くしていただきたいと思っていますので、どうかよろしくお願ひいたします。

教員生活再スタート

新潟支部 長谷川昇 (18)



この3月で定年を迎え、退職者のお仲間に加えていただき

した。栃尾高校全日制で3年、新潟聾学校5年、新潟商業11年、巻高校7年、新潟北高校8年と回ってきた、最後の2年間は新潟向陽高校でのクラス担任でした。最初で最後の即担でしたが、2年生から受け持ち、無事卒業式までたどり着くことができました。新潟県の公立高校で36年の勤務でした。

この間、新採用の年に組合にも加入し、翌年の栃尾分会青年部長を皮切りに、一昨年の本部執行委員まで様々な役員を経験させていただきました。様々な立場で、様々な場面で、多様な方々に出会うことができたのも、組合活動を通じてであったと思います。本当にありがとうございます。特に青年部時代の多くの経験が、今の自分を作ってくれたと思います。

さて、4月からは、生活のため、また心身の健康維持のため、再任用を希望し、希望通りのフルタイム勤務で、勤務校も継続の新潟向

陽高校になりました。さらに、新入生のクラス担任を任せてもらうこととなり、3月までの生活がそのまま続いているような状態です。無理せず、気張らず、自然体でやっていきたいと思っています。

組合にも継続で加入し、先日の分会会議のおり、分会学習会として、私が講師役となり、これまでの組合活動への関わりと経験から感じたこと、考えたこと、伝えたことを皆さんにお話する機会を作ってもらいました。大変貴重な時間となりました。今後は、仕事以外にも生きがいを見つけていることが、私の課題と考えています。



分校・定時制時代(リレートーク/3)

「新井高校原通分校の思い出」

中島眞皓(01) (上越支部)



1979年4月に新井高校原通分校(昼間定時制)に数学科教員として赴任しました。高校教員が同一校に長く勤めることが普通であった時代で、分校といえは新採用者が赴任するケースが多いようでした。新潟高教組としては時間をかけて下部討議を積み重ねながら「これからは積極的に人事異動を押し進め、一度は区分校(僻地、定時制等)を経験しよう」という方針が出てきたときでした。

4月に赴任したときは古い木造2階建ての校舎の周囲はまだ2m近い積雪で、冷蔵庫の中にあるような気分でした。生徒は1、4年全員合わせても100名以下だったと思います。生徒の多くは新井や妙高村の山間地から通っておりましたが、一部は新井市内からバスで原通まで通学しており、私も生徒と一緒にバス通勤でした。彼等なりに進学の希望があったと思えますが、学方面や家庭の事情で

分校に入った生徒も多く、全日制の生徒に対するコンプレックスが強かったようで、本校で開催される講演会や学校行事への参加には抵抗感があったようでした。

生徒は子供の頃からの長い付き合いで仲間意識も強く、各種行事では強い結束力を発揮していました。分校の最も特徴的な行事である「雪の芸術祭」では、学年毎に校庭にそれぞれ工夫を凝らした雪像を造り、その出来ばえを競います。ある年のことですが1、2年は早速雪を積み上げ踏み固め見る見るうちに雪像の輪郭が出来上がっていく中で、3年生は雪の下に潜って何やら作業をしており、一向に雪像の形が見えてきません。所定の時間になり審査が始まりますが、3年はなんと雪の下に見事な迷路を造っておりました。彼等なりの3年間の集大成としての雪の芸術作品だったのです。

ら標高600mの桶海(その後観光開発でパインバレーとしてスキー場やゴルフ場に変身)までの山道を駆け上がり分校まで戻って来る伝統の行事で、距離は23km、高度差400mのハードなコースでしたが、途中地元の人々からの声援にも励まされてほぼ全員が完走していました。後日私も放課後に同じコースに挑戦してみました。途中で諦めて引き返してきた記憶があります。女子も少し短いコースでしたが、全員頑張って完走していました。

授業に組み込まれた必修クラブは、バドミントン、卓球、写真、書道等を展開し、生徒と一緒に遊ぶ楽しんで遊ばしてもらいました。クラブ活動でもバドミントン、陸上、卓球が定通大会等で一定の結果を残しました。また相撲の指導者が赴任して来てから、早速生徒を集めて相撲部を



担任をしたクラスの生徒たち

職員の間で長い時間をかけて激しい議論をしたものです。分校勤務では通勤や生徒指導・授業などそれなりの苦労はありましたが、全体に気持ちのうえではゆったりと過ごさせてもらい、放課後には生徒との雑談、山菜とり、山芋掘り等を楽しんだ4年間でした。

2019 参議院議員選挙

「参院選を振り返って」

事務局 石野公久

安倍政権は、年度末に予算案が成立するやその後予算委員会を一切開かず。改元やG20などの徹底利用、テレビで吉本新喜劇や人気芸能人との共演、インタビュをニューズ化させたり、また、国会閉会ギリギリまで「風はきまぐれで誰かがコントロールできるものではない」など解散権をもてあそび、参議院選挙の与党有利を準備した。

安倍政権の参議院選の狙いは、非改選と合わせて改憲勢力「3分の2」越えであったことは間違いない。その自民党は新潟選挙区に塚田一郎を立てた。安倍政権は安倍・菅に加え、塚田が所属する派閥の長の麻生を2回、そして小泉進次郎までも次々に応援に投入した。



また、全県民の代表である花角知事も含めての総力戦で、「付度議員でも勝てる」と新潟県民を徹底的に愚弄した選挙を行った。

対して、私たちは改憲勢力「3分の2」割れを最低線として現退一致で選挙戦に取り組んだ。結果は、選挙の勝敗を左右すると言われた1人区のひとつ

新潟選挙区で野党統一候補のうち越さくらが521、717票(50・49%)で付度発言の塚田一郎に約4・2万票の差をつけて当選した。比例区は、民主教育・平和教育を守り抜く観点から現退一致の推薦で取り組んだ元日政連議員で立憲民主党のみずおか俊一が党内2位の得票で当選を果たした。社民党は比例区で2・09%を獲得し、

政党要件を維持することができた。多くの人が護憲の政党、野党統一の要としての社民党を何としても残そうと取り組んだ結果と言える。このことは、今次参院選の大きな成果であったし、今後の民主政治に寄与するものになければならないと思う。

「生産性で人をはからない」とのスローガンで山本太郎のれいわ新選組が躍進し、政治を動かし始めた。「辺野古新基地建設中止、原発即時禁止・被曝させない」などの「れいわ」の訴えは野党共闘、野党と市民連合の訴えとほぼ同じだ。次に必ず来る衆院選の1人区では、れいわ新選組も含め、野党と市民連合をさらに前進させる取り組みが重要だ。

最後に、塚田一郎に対する花角知事の応援についてはひとことある。自民党の支持によって誕生した知事だが、当選して県民の代表となった。選挙で応援することもあると思うが、今回は安倍と麻生という最高権力者に付度して地元公共事業に国民の税金を投入したと公言した候補者だ。こんな候補を応援して回る姿は県民の代表として相応しくない。

『活動日誌』・点描

■2019年度新高教・新高退定期協議(4月22日) 現退一致の活動を確認 ■憲法記念日新潟大集会(5月3日) うち越さくら参院選野党統一候補もリレートークに参加 ■事務局会議(5月7日) 総会議案検討 ■役員推薦委員会(5月8日) 互選で小畑委員長選出 ■役員会(5月15日) 総会議案事務局審議 ■県退職者連合幹事会(5月17日) ■事務局会議(5月22日) 富山旅行参加者の確認 ■新退教第47回定期総会(5月24日) 会長が来賓出席 ■事務局会議(5月29日) 支部宛会長メッセージ用意など ■憲法学習会(5月31日) 「沖繩からみた憲法・安保・地位協定」講師・前泊博盛さん(沖繩国際大教授) ■「通信No.133」発送(6月5日) 総会議案号。発行部数717部 ■教育をよくする県民会議幹事会(6月6日) 会長出席 ■第48回日退教定期総会(6月7日) 会費の値上げ、総会の隔年開催決定。西澤会長が退任し、竹田事務局長が新会長に。なんととしても参院選、日政連みずおか俊一候補の当選を勝

ち取る意思統一 ■2019年度
県委員会(6月12日) 総会議案説
明。支部活動費配付 ■柏崎刈羽
原発運転差し止め訴訟(6月13
日) 福島県中通りの自主避難者が
意見陳述、福島県民に年間20ミ
リシールド被爆を強いることに批
判 ■第43回北陸ブロック定期総
会(6月19・20日) 石川高退教が
当番。記念講演「安倍政権下にお
ける憲法『改正』」 ■事務局会議
(6月24日) 総会・懇親会の準備
■第38回総会・懇親会(6月26
日) ■事務局会議(7月3日)
富山旅行の準備 ■事務局会議
(7月10日) 富山旅行の準備
■新高教希望奨学生選考委員会
(7月16日) 80人を決定、202
1年度で募集終了 ■富山旅行
(7月17・18日) 26名の参加。天
気も上々 ■参議院選挙投票日
(7月21日) うち越さくら・みず
おか俊一当選。改選勢力3分の2
を阻止 ■柏崎刈羽原発廃炉県民
集会(7月27日) なぜ廃炉か、東
電は原発を運転する資格も能力も
ない他 ■県退職者連合第27回年
次大会(7月30日) 初めての年次
大会。うち越さくら参議院議員バ
ッヂをつけて御礼の挨拶 ■事務
局会議(7月31日) 会員名簿登載

編☆集☆後☆記

会員の確定 1学期終了。(石野)

「富山旅行」は26人もの参加を得た。初めてバスが満席だった。新しい人、久しぶりの人、若い人と声かけに応じて参加してくれた方に感謝したい。「私たちの会を盛り上げたい」との気持ち理解されたことに感謝する。

初日最初のトロッコ電車、2日目最初の工場見学が時間指定なのと、初日に東の端(宇奈月)から北の端(氷見)まで移動することにしたので、旅は時間的にややタイトな日程になった。ただ、1泊2日の日程にメインのトロッコ電車、工場見学、定番にしてきた班別行動を組み込み、時間を使い尽くす計画に仕上がったと思う。

「日退教総会報告」は、総会の隔年開催化、会費の値上げ、「生きがい支援協会」の事業打ち切り、全てが財政悪化のため。我々の総会議案確定後に報告されたため、新高退予算に反映が間に合わなかったことをお詫びする。

「2019総会報告」は、前年度の活動報告と決算報告が評価の中心となる。サポートGの計画によ

る親睦活動と、新高教と一体で取り組む運動を車の両輪として取り組んだ。その活動に支出した経費と会の全収入について丁寧な説明を行い、代議員に理解を得た。

提案した議案は全て了承された。事務局の努力を認めてもらった様で素直に喜びたい。会計運用改善は軌道に乗ったので、さらに自立率を高める取り組みをしたい。

「この人はいま」は、新高教委員長を勤めたあと、退職後は議員として活動してきた渡部良一さんの「議員生活の総括」とも言えるもの。

「参院選を振り返って」は、地域で頑張った石野さんの報告。

選挙区の野党共闘候補として県外出身のうち越さくらという候補を提示されたときは、多分多くの者が「相手が付度候補とは言え、勝てるだろうか」と思ったに違いない。しかし、これまでの新潟独自の共闘方式が根付いてきたこと、そこで当選した議員がきちんと仕事をしたこと、それと自民党のオウンゴールで勝利を得た。

また、比例区では今回ほど悩ましかった選挙はない。組織推薦(日政連)のみずおか俊一、政党要件がかかっていた社民党、本物

の政治家として魅力一杯期待大の山本太郎。組織推薦はそれとして、個人の思想信条によって投票された結果が、全て「とりあえずよし」となったと考えるか!。(内山)

ご冥福をお祈りします

(括弧内は「現職退職年」)

2018年

塚脇 曼 さん (89)

(新発田村上支部) 10・31

2019年

生田 欽識 さん (94)

(新発田村上支部) 3・16

保苺 一雄 さん (95)

(新潟支部) 3・26

高橋 瀬織 さん (92)

(新潟支部) 3・27

川原 崇 さん (01)

(新潟支部) 6・6

井上 道雄 さん (87)

(新潟支部) 6・20

城野 忠弥 さん (97)

(佐渡支部) 6・26

前澤 宣治 さん (95)

(柏崎支部) 7・4

田村 壮六 さん (84)

(新潟支部) 7・10